夢 通信

平成25年 2号外

夢をつなぐ 心をつなぐ 世界をむすぶ
きぬがわ せいさ こうぎょう
衣川製鎖工業株式会社

日刊 産業新聞
2013年（平成25年） 2月4日 月曜日

画像はカラーと交換しています。

鉄のふしぎ？博物館 ■6

大勢の来館者

衣川製鎖工業・衣川良介社長

2012年12月6日、『鉄のふしぎ博物館』に母校、高浜小学校の児童17名引率の先生1名、大勢のにぎやかな見学者たちです。ここ兵庫県姫路市では磁石の授業が3年生の3学期に行われ、それに先立つ1月末から2月上旬に来館されるのが通例でした。今回は『校区探検』で校区内にある神社・仏閣などを見て調べる、そんな施設の一つに「鉄のふしぎ博物館」が指定され、6クラス約200人の子どもたちの希望を聞き、収容可能人数に合わせて抽選をして決めたそうです。ちなみに、小さな博物館は最大収容人数が15人なのです。

予定の時間に事務所をのぞかれた先生「今日はよろしくお願いします」、きれいに整列した児童たち「こんにちは！見学にきました！」と大声であいさつを頂き、私は「いらっしゃい！」と負けずに大声を出しました。博物館では事前にお渡ししていた名札を首から下げて入館。「石ころは磁石につきますか？つくと思う人は手を上げてください」全員が手を上げました。「あれ？」こんなことは初めてでした、事前に予習してきたのです。「それではこの石ころはつきますか？」近所の市川で採集した石ころです。今度は数人が手を上げていません。首をかしげ「それはつかないだろう」そう言っているように思えました。「あれ？ひっついた！」驚きと歓声が混じります。日ごろ、市川の河原で遊んでも石ころが磁石につくとは考えないので試したことがないのです。

全国各地の石ころが磁石につく事を体感させました。ウトロ（北海道斜里郡）、東通村（青森県下北郡）、ヒスイ海岸（富山県朝日町）、大河内（兵庫県神崎郡神河町）など、市販されている真っ黒な『たれパンダ』を強い磁石でぶらさげると「それもつくの！」目を丸くして驚きました。その他、市販の『大磯の砂』、『緑の蛇紋岩』、『金魚鉢や熱帯魚の水槽に敷く小さな石ころ』など。「おっちゃん、どんな石ころもひっつくの？」、私「火山でできた日本列島では磁石につく石はどこにでもありますが、全部がつく訳ではありません」。砂鉄を多く含んでいる石は磁石につくのです。

天然磁石（岡山県柵原鉱山）

子どもたちの大好きな天然磁石、『鉄のふしぎ博物館』には大中小、比較的強いものから、砂鉄をすいつける程度のものまで数個展示しています。強く大きい天然磁石（アメリカ、ユタ州産）、昨年頂いた柵原（やなはら）の天然磁石（岡山県久米郡）、餅鉄（岩手県上閉伊郡大槌町）。

大きい磁石にゼムピンを連ねて遊ぶ子ども、ゼムピンをつけたり、外したり。この天然磁石の上には、子どもたちが帰るといつも磁石が一杯乗っています。柵原の天然磁石を手にぶら下げて得意げな顔の子ども「Nと書いてありますが、こっちが北に向くのですか？」「ズーット半日くらい持っていたら北を指しますよ」

子どもたちのおみやげに、砂鉄と『ぱっくんワニ』をプレゼントしました。「いつでも来てくださいね！名札の裏には電話番号・メールアドレスも書いてあります。質問があれば連絡ください」。先生が「学校にもない珍しい貴重なものをたくさん見せていただきましたね」整列した子どもたちが最後に大声で「ありがとう！！」

『鉄のふしぎ博物館』見学風景

日刊産業新聞 13・2・4